

すきっぷ



＜発行元＞ 特定非営利活動法人 緑区子どもサポートセンター
 千葉市緑区菅田町2-24-16 TEL&FAX 043(308)4436
 E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
 URL: <http://saposen.konjiki.jp/>

幼児のスマホ使用と手指の発達

皆さんが小学校の頃、ランドセルの中には筆箱、そしてその中には鉛筆が入っていたと思いますが、どんな鉛筆でしたか？入学から低学年のうちには2BやB、そして学年が上がるにつれてHBへと変化していったのではないのでしょうか？

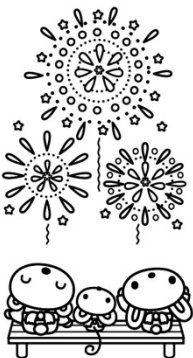
ご存じのようにBの鉛筆は芯が柔らかく濃く書けます。HBとなるとある程度の筆圧が必要になりますが、無駄に力を込めなくてもスラスラと書けるようになっていけば、むしろ手やノートを汚すことなく細かい字をたくさん書いて便利です。

ところが昨今では鉛筆売場からHBが姿を消しつつあるというのです。先日NHKでの番組(所さん、大変です！五月一日)で放映されていましたが、最近の子ども達は小学校高学年になっても筆圧が弱くて、HBの鉛筆で書いた字が薄く、弱々しくて読み取れないという現象が起きているようです。

手の骨格は幼児期に於いては適度の隙間があり、成長と共に隙間が無くなっていき、高校入学の頃によく成人と同じ位にま

で大きさや骨格形成が完成するそうです。その間に様々な動かし方や力の入れ方などを体験しながら鍛えられ、力加減の調整や器用さなども身に付けていきます。

鉛筆だけではなく、たとえば食事の際の道具に関しても同じことが言えます。十ヶ月頃には、手づかみで食べてみたり、フォークに刺してあげたものを自分で握って食べるようになります。スプーンですくうことやフォークで刺すことを覚えて離乳食を完了し、幼児食へ移行しながら箸の使い方も上手になっていきます。当然のように上手にいかないうちはボロボロこぼしたり、落としたりして散らかります。綺麗な状況ではいられません、その時期に汚れを嫌って親が食べさせてばかりいたら、いつまでも上手にはなりません。身体の機能の発達は体験を重ねることで伸びていくのです。この時期に汚れないように親が口へ運んでいたのに、「うちの子は四歳なのに箸を使おうとしません。どうしたらいいですか？」と言われても・・・積み重ねが肝心です。



ひ弱な手指



手指の力の弱さは別の場面からも聞きました。知り合いがピアノの先生をしているのですが、ピアノを弾くときの手の形（よく言われるのが、中に卵を入れたように綺麗に丸く）この形で弾く際に親指関節がペコッと中に入ってしまうお子さんがあり、その割合は三〇年前には一割↓今では四割強に増えているというのです。いわば生まれたての馬や鹿の赤ちゃんが立ちあがっても足がクタクと崩れてしまうのと同じ原理でしょう。

また小学校の水洗い場の水道栓、新築でない公立の学校では昔ながらの三角蛇口となっていますが、入学したての子どもの中にはあの蛇口をしっかりと捻って水を出したり止めたりできない子どももいるそうです。たしかに現在では衛生面と節水を考慮しての自動水栓やレバー式で簡易に調節できるものが普及していますね。雑巾を絞ることもあまりなく、ウエットお掃除シートでサッと拭いてポイッと捨てる方が多いかもしれません。現代の生活では手や指を使うことが極度に減ってきてしまっているのです。

これでは脆弱な手指のまま大人になってしまいます。筆圧が弱いのも当然でしょう。

二歳児が独りでスマホを操作する

教育現場でのネット利用安全教育を実施している団体、NPO法人 e-juice が昨年九月に実施した調査（一〜六歳の幼児をもつ保護者一五八人対象）結果によりまずと、スマホを週二回以上利用する習慣のある一歳児は18.2%、二歳児は47.4%だそうです。

そして32.5%の幼児が親と同じく十分またはそれ以上の時間スマホ利用をしているということです。電車の中や外出先でよく見かける光景は、ベビーカーの上で黙々とスマホやタブレットの動画を見たり、ゲームをしている一〜三歳児。シユシユと慣れた手つきで操作をしており、たいてい母親はスマホを見えていますから納得のいく結果だと思えます。

言葉の発達がめざましい二歳児の頃には同じ物を見て感覚を共有することや、目を合わせて会話のキャッチボールを楽しむことが何より大切だと思います。

小さい子どもは親の仕事をしっかり見ているので、教えなくても真似して操作できてしまいます。機嫌よく独り遊びしていてくれるからといって、おもちゃとして与えてしまうことはお勧めできません。

ノンフィルター・ノールールの危険

所有率も高くなる十〜十七歳の青少年家庭でスマホ利用のルールを定めているのは7%、フィルターなどセキュリティ対策をとっている家庭は90パーセントしかありませんでした。（前述同調査結果による）

有害サイトへの強制誘導やウィルス感染、金銭被害なども起こっており、無防備な状態で子ども達に操作させていることへの危機意識が低すぎると思います。

そして皆さんご存知のように、映画などでは鑑賞年齢制限があり、残酷な描写や性描写、暴力場面などの含まれる映画を子ども達が見られないようにしています。

しかしフィルターをかけていないネットに繋がるスマホを持っている子どもは簡単に見ることができてしまいます。事実、今年起こったイスラム国による日本人殺害後、

映像の無修正版を小学生が友達同士で見たという話も耳にしました。

その一ヶ月後にはイスラム国の映像を見て、人を殺したくなり練習の為に小学校へ侵入し、飼育小屋の山羊を刺した中学生の事件が発生してしまいました。大変恐ろしいことです。

また一日中スマホを手放せないという青少年も増えています。いわば依存という危険な状態になり、精神科治療を受けないと治らない子どもも増えていると臨床心理士の先生がおっしゃっています。家庭では食事中もスマホを見ており、親が注意しても聞く耳を持ちません。こうなってしまうからではルールを決めて守らせることは困難です。

臨床心理士の先生は「一歳児の時からメディア関連の主導権は親が持つことが大切。テレビのリモコン、ゲーム機、スマホなどは親が管理しましょう。」と警鐘をならしておられます。

しかし、スマホやタブレット、パソコンがこれだけ普及した現代社会、核家族では家事をする間の子守役として子どもに見せたいというの否めないで、時間を決めて適切な使い方をしていきたいものです。

スマホやタブレットの影響

最近よく耳にするブルーライト。その量は、スマホが最も多く、続いてゲーム機、パソコン、テレビという順になっています。スマホは眼との距離も近いので、その影響はさらに強くなります。目の角膜まで到達し、眼精疲労の元となるだけでなく、心地よい睡眠へ誘うメラトニンの分泌を抑制してしまうため、睡眠障害や頭痛なども引き起こします。お子さんだけでなく、お父さんお母さんも気を付けた方がよさそうです。

そしてスマホの操作は指一本を伸ばしたまま軽く触れたり、シュッとなぞります。では絵本のページをめくる時はどうでしょう？親指と人差し指で薄い紙を挟んでつまみあげてめくりましますね？紙の厚みを感じながら一枚ずつ器用にめくる動作も経験しなければ上手にはなりません。

お菓子などの袋を開ける時に、ギザギザの辺を手でちぎって開けることも多いと思いますが、最近の小学生は四年生になっても開けられない子が何人もいるそうです。遠足に持参したお菓子の袋が開けられずに、諦めて持ち帰ることもあると聞きました。

小さい時に紙をちぎって撒いて遊んだり、貼り絵などをたくさんしたいものです。そうした活動を積み重ねていくことで筋力や器用さが身に付き、鉛筆の筆圧の強さやコントロールが可能になるのです。

SNS投稿には気を付けて！



今やさまざまなSNSサイトがあり、お子さんの可愛い写真や動画をアップしているのを見かけします。閲覧する側としては微笑ましい姿に癒されます。

スマホやデジタルカメラで撮影した写真には撮影した場所を特定できる情報が付いており、住んでいる場所が特定できてしまいます。顔写真と住所がわかるといえば、誘拐などの危険も高まります。

また一度投稿した写真は閲覧範囲を友達限定にしておいてもシェアされる可能性があります。未知の世界まで広がることもあり得ます。悪用されてからでは遅いのです。

便利なツールであるスマホ等、小さい子どもを持つ親御さんは十分に気を付けて使用し、併せて手指を使う動作も楽しく体験できるようにしたいですね。(高山雅子)

子どもキャンプ 開催

日 程：平成27年8月16日（日）から18日（火） 2泊3日

場 所：千葉県立 東金青年の家
千葉県東金市松之郷 270 TEL:0475-54-1301

募集定員：15名程度



参加資格：小学校4年生から中学校3年生まで

参加費：会員8000円／ 一般12000円

申込方法：Fax またはメールにて申し込みください。
※6月いっぱいには会員優先期間です。一般の方は7月1日より
申込できます。7月10日締切。

TEL・Fax 043-308-4436

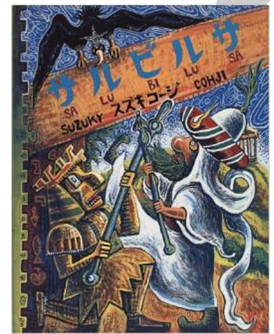
Email kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp

緑区誉田町2-24-16 緑区子どもサポートセンター

<おすすめ絵本コーナー>

サルビルサ

スズキコジ/作・絵 架空社



表紙の絵は鎧を着た王様と白い服を着たイスラムの指導者らしい二人が戦っている絵です。この絵を見て「この本を手にする人」と「無理」と思う大人がいると思いますが「皆さんはどうでしょうか」。スズキコジさんの絵は一度見たら忘れられないほど迫力と個性があります。挿絵と言うより画家が描いた絵です。中の文章は「モジモジ」「ジモジモ」「サルビ」「ビルサ」など??? どう読み解くか読み手の想像に任せられています。

1匹の獲物を巡ってついには2つの国が戦争になってしまうというお話ですが「事の始まりはささいなこと。これって人間関係でもよくあることで「国のメンツがかかると戦争になる」という大人たちへの警告なのではないでしょうか。小学校で読み聞かせをすると子どもたちはとても喜び「サルサ」「モジ」「ズナカサルビ」と声を出して楽しむと聞いたことがあります。絵のかわいらしい本「道徳的な本」「知識が得られる本」などたくさん絵本が売られていますが「子どもの心をとらえるこんな1冊を是非読んであげてください。」

あしたば文庫主催 川本泉美